榮光

７４４号

2022年９・10月

日本基督教団
田園調布教会
伝道部発行

〒145-0071
東京都大田区田園調布
3－34－18
電話　03-3721-2811
FAX　03-3721-2814
http://den-church.jp/

だから、恐れるな

マタイによる福音書　一〇章二四～三三節

牧師　高橋和人

最初の教会の信仰告白の言葉は「イエス・キリスト、神の子、救い主」という言葉でした。その頭文字をとるとイクスース「魚」という字になり、教会の隠れたしるしとなったことが伝えられています。迫害の時代には互いに信者であることを表す隠れたしるしとして用いられたことが考えられます。イエスはまさに唯一無二の救い主であります。

主イエスを主とすることは解放をもたらします。主というのは主人のことで、誰かを主人とするとその人の所有となって、他人には支配されないことを示します。

その主であるイエスはまず、人々に語り掛ける教師として登場しました。そこには弟子たちが集められ、師と弟子という関係ができました。学問でも芸術でも誰を師としていたかで、その人の技量や傾向が分かります。どの先生に付いたかで、その人の力も予想がつくのです。師も主人もしっかりした結びつきを持っていなければならないのです。二四節以下で、主イエスは誰を師とし、誰を主人としているかを問われます。

気づかなければならないのは、人は知らず知らずの内に誰かを主人とし師としていることです。そしてそれに支配されます。支配する者は恐れを用います。不安は人の心に入りやすいものです。

必要なのは恐れないことではなく正しく恐れることです。人は人を恐れます。何よりもその口を恐れる。何を言われるか、どう思われるかを恐れる。そのようなことが気になる場合には、心を奪われ支配されてしまいます。自分のことが話題にされたときにはみじめなものです。だからそれを隠します。自分の弱さを隠し、失敗を隠し、何よりも罪を隠します。隠していること自体が人に恐れをもたらします。人の歩みは隠し事を増やしていくのです。

主イエスは「人々を恐れてはならない。覆われているもので現されないものはなく、隠されているもので知られずに済むものはないからである。」と言われます。明らかにされることを恐れてはならないというのです。その時、「わたしが暗闇であなたがたに言うことを、明るみで言いなさい。耳打ちされたことを、屋の上で言い広めなさい。」と言われます。

主イエスが暗がりでわたしに語る場面があるわけではありませんが、個別に語られたことがあります。九章で主イエスは癒しの奇跡を行われましたが、その時中風の人には「子よ、元気を出しなさい。あなたの罪は赦される」（二節）、と出血の女性には「あなたの信仰があなたを救った。」（二二節）と目の見えない者には「あなたがたの信じているとおりになるように」（二九節）と言われました。

わたしはこの三つの言葉を聞くだけで、人生が変わると思っています。それを自分に語り掛けられたものとして、自分のものにすることができるからです。まさに恵みによって与えられるものです。与えられたものですから、失われることのないものです。

しかし、これは恐ろしいほどに信頼できる方を知ることがなければ聞こえて来ない声です。彼らは癒しに伴ってこの言葉を聞きました。

福音書は迫害の歴史を背景にしています。一〇章三二節以下の「だから、だれでも人々の前で自分をわたしの仲間であると言い表す者は、わたしも天の父の前で、その人をわたしの仲間であると言い表す。しかし、人々の前でわたしを知らないと言う者は、わたしも天の父の前で、その人を知らないと言う。」は迫害を背景にしています。